

繪本
甚豆臣勲功記

五編
八

へ遠13
2209
48



13
2209
48

繪本豊臣勲功記五編卷之八

目錄

先後説信奉（あきらめとてがけいんのとがせせしたまはる）匿大坂（かくれおおいさか）祈首（いのちをたもとむ）

属攻二條城（しゆこうにじょうじょう）

信忠（のぶただ）御所（ごしよ）最期（さいご）二條落城（にじょうらくじょう）

属諸士（しよし）我死（われし）

繪本豊臣勲功記五編卷之八

光秀入妙心寺料理万端

属安土落城

細川又子全義不勳光秀

属忠興去妻



繪本豊臣勲功記五編卷之八

櫻澤堂山 編輯



光俊親信奉匠大臣河首属攻二條城

誰が通るぞ。行車輪ふ始終をしと。轉行車は始終のありあがり。現る
目に始終をばせむる條の能くするをのよかん。因中。果中。果中。まご
因成生ま。宛行車の始終をさしに似たまごを。其始終ありと。是期せざ
る。智ありて無。猶方まきり。是ふ勝まきり。横揚らる。此名士あり。別人
なり。明智左馬助光俊あり。然れど。本陣寺の河津館に。哀を。一圓
に。談大とありて。熾く爆くと熾上る。進まへ。各先伐争ひ。烟を。渡さ。大を
踐で。信長公の河首を。濁人と称す。そのか。ふも。並川。全右衛門。遠。速。河
座の廳に。幽。客。て。烟。散。た。る。火。を。拂。除。す。大。臣。の。河。首。を。刺。ま。ぬ。を。被。る。ふ

合野原
白旗の夜に袖を牽裂するは不單に這隊の大將光後のも一進人となり。
石馬助をこれより遠く馬より蹴却身は慎人の親を中つるに遠
ふらふに大居殿の沖首をたれば聲を潜めず並川に潜る中り。足下勢で
刀火を侵し大居の沖首を潜る中り。今日此功名隨つたり。唯深く慮を
材のあきば足下の功名一齊に遠洲首を匿したる存せざるれば狂え光
俊は通与らさよと。襦毛果れず並河息絶。此の副将子不具一言。死首の
せよ幸ふと。投し沖首を匿る。他の誓を妬まふ。自他備ふ。血
を淋。肉伐削て殺し。唯遠敵を看んたれり。然といふる。穉あるに
せよ。遠敵をもて匿る人。最恨めしき事なり。と腹を合へて言及るに。そ
光俊莞然とらち笑ひ。並川氏さ怒む。其時諸人皆聽し。知
る如く。至人光秀。大居殿を最治に恨を屢積る。成るべく。此は成治を

謀叛を跋企終に合我の合日に登び。鬼神と呼をれ。大將を斬るに。こ
ろく撃たてまつり。積恨全く報ふ。足下なり。然るに今此沖首を中つて日
向に足下を中る。懐怒は堪ふ。沖首に朝す。或は罵り或は罵ら。是も
て痛も做らぬ。危ゆるいなる恨あるもせよ。佐長公のこれを見たり。天皇
是に憂まざるんや。足下光秀に忠義を存する意あり。唯遠敵は深
く匿し。光秀は小需むるも。大中に亡し。失つと。謂ふ切く日向守が。
罪を贖ふ忠義は餘慶。これこそ起るものあり。と。真儀をりつ。況んや
は急燥を蒐り。今大居も。落涙するまで威服。逆は光俊が河に如く
沖首を潜く。躲して。足下慮て阿彌陀寺の面を上人の持へ。これを
弄り。そまつりぬ。後左馬助が深慮のわと切り。と。祿候に備ふ。大
將光秀の大臣の沖首。此を見えと。息煙こと遮りかく。亦是内義分

豊臣氏五編卷之八
二



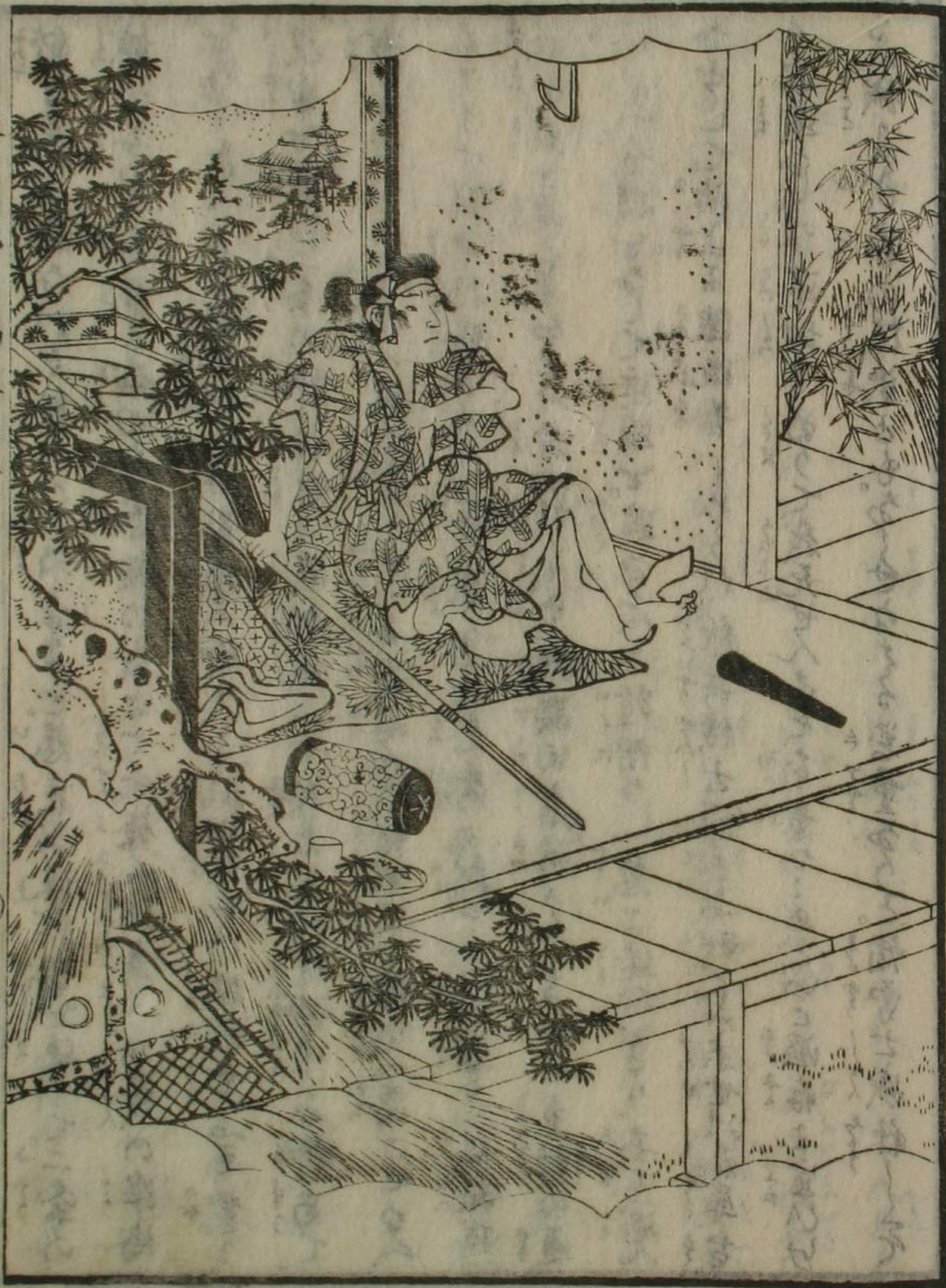
豊臣五編卷之六



豊臣五編卷之六

けりて存び所首被搜すむるを先俊病は内務介を招寄せ所首
 と解せし信義を誦れいささも奇しく威佩して其意に同ト相計りて
 所首を單に白旗の旗残りたる隻袖を日向守と承ふをせり所首は
 小搜せども近士尾従の深く躲しはるるあり。骸屍をさへ中目を僅く火
 畔の水あるとこ所首。右大臣の常衣の隻袖鮮血は泥まきありたるあり
 と是出を日向守躰断しは見遍たりしが。懸て所袖とらふに捕血走る
 ちで眼を瞑らし。あまりに焦胸て言句もなく。戒刀を逆みし把舒白旗
 の衣をすまはく。裂て放擲と抛着は。是ありハ背懐されたりと。一喝呼ん
 で休る。然内務介は心の中。先俊が深慮を感とらる。備亦三位中
 將信忠卿ハ。昨夜園の下るる本姓寺より歸らせむ。二條の城に入
 らせられ。その夜ハ暑氣酸々を清らる。浴しむ。更園るを。相傳

せり。暁も知らず寝る。たるが。本姓寺に事ありと。洛中の噪初漏
 か如く中將これに誘ひ。先俊援兵して父君を救ひまゐらせたり。ん
 と守衛軍を五百を。と車後馬を鞭うち馳せむ。二條の一字衛を過
 んと。所司代村井長門吉同春長軒。長門吉。同作右衛門尉。長門吉
 父子三人。明智が捕縛を断く。從出。場。池。中將の馬。前。後。俯。洞。を
 か。ら。ひ。口。条。の。方。に。相。指。て。言。叶。せ。り。あ。ま。り。を。な。せ。那。英。中。小。悲。し
 や。右。府。の。所。生。害。ま。す。ま。は。な。ま。さ。那。寺。小。朝。を。せ。む。も。其。甲。斐。な。か
 る。處。れ。の。を。杖。城。中。へ。送。せ。む。途。中。の。交。戦。を。是。中。に。危。く。な。れ。と。頻
 小。勅。め。す。わ。ら。を。不。一。妙。覺。寺。に。次。舎。を。ひ。く。織。田。源。三。郎。掃。長。同。又。十。郎
 長。村。一。族。九。市。次。郎。勅。七。郎。猪。子。兵。助。か。ど。い。ハ。輩。漸。次。に。小。馳。着。て。軍
 城。を。然。る。と。と。東。に。ふ。じ。信。忠。卿。も。拘。ら。れ。痛。く。四。束。の。方。を。祝。ひ。あ。む。と。



梶原松千代
病を冒して
二條の合戦に
趣くんとす



敵まはしく城をたて新への力及ふ事と悲哀も堪はれず遂して二条の
 城も容れず左右は織田家恩顧の武士七千餘人馳集り防戦の準備
 をせしむる。此物明智が軍勢の脚すは風を起すの極威雲も登る
 我もんとつゝ軍いとまをわく。或は安土へ還人と勧め。又ハ濃州へ落るを
 とせしす城中に於て。其の愚あり先秀が影中を根深を謀叛成
 政企君を殺すもやとせ者か。坂本守治。瀬田唐造ら。そのわき系統の通
 門へ分撥を命じて進退を遮るるに新智を。熱く迷ひて。安土へ還
 らざして。踏よる漂流若しゆられ。新兵様士の子も到らば末世に飛辱を
 ぐに道なき。唯這城もあつて。我死せんを本意ありと。温存は宣ひけ
 る。城は武家の棟梁とも。あせむる善量ありと。諸勇士感服してそ

まりぬ。それがあつたを氣く區よして。軍城をこころおこひて人思を
 先秀は勳興せしその秋。おひく小落りて。おと小強る。我名織原の
 勇士達僅に八百有餘人。城をりて。軍城をたて。後小尾羽の佐人。梶本平
 左衛門尉。嫡子。松子代といふあり。享年はつとふ十三歳ありといふ。とも
 又も芳らぬ勇士ありて。信忠郷の所供を。上系して在る。京師ふ
 番せし。當夕より。暑邪小犯され。病臥て。熱氣必體を焼が如く。所傍
 小在も。焔かりと。小堀二条の城。の意は旅舎して。後藥療治は。なる。と
 あり。今朝本城守り。二條の城。一大事ありと。駭と。病の床と
 破と。政起。流梁の餘を。捉人とせし。足踏め。彼他と。倒る。先秀。梶本
 又志。後。此。走。り。倚。背。其。却。成。松。子。代。賈。里。呼。朽。憾。や。昨。今。病。臥。外
 一七起。と。称。く。重。恩。の。君。が。御。大。事。を。使。よ。着。て。あ。く。多。き。後。令。遠。身。ハ

信忠も逆城明智の陣に遠投先秀が肉を噛裂人泣噴せり
 二條の沖不へ伴信一と。鑿断せりてまうはれを又右衛門洞を浮
 め仰らるるるとりとりども。暫時舟身を養生しむ。疾病を全使あへ
 后忠我を竭くうらな。大后舟父子あふりて。逆長めいふれされ玉
 ひ。二条まで落城せとも。沖一族諸所ふあふりて。中六相業あんと。東
 と。刀城勅せく。逆城を沖退治あるを簡要をれ小后これより沖所
 弛着。孺子の漢漢を言状し。思あがら舟身代を。はくまうらんと。智毛
 終らぬ。後せとらる一偏をし。七寸まうりの馬牽情せ。跨るるとこえり
 一。雙拍つれて一蓮子。二条の城へ弛着り。洞操の下子低頭して。主人
 松子代が始終を。祥よ言状し。るるが。機會よとも。信忠卿廳近ふら
 して。聆しぬ。沖威賞渡り。至右なりと。彼意ありて。洞操ふま
 へ。自清水柄の沖羅刀を揚り。あき城をんく。敵徒を防ごうと。と
 一。沖洞をけりぬ。又右衛門が。身以過分なりと。兩拜三拜。沖羅刀を推
 戴。面圍をく弛出。防我の威を。おせり。驍。くもまう。恃依り。是
 去恨。死三百人のうち。面登。と。人乃又。右衛門をりて。書化せり。

信忠卿沖最期二條陥落属諸士戦死

大樹のわらび根深く。古池のうへ。洞るると。は。然。二条の城内。沖我
 一。勇士。勢一と。つと。も。金一個をりて。千騎。子。款。する。極。え。な。れ。今。款。中
 一。二条。城。の。之。獨。立。と。も。畏。る。氣。色。更。ふ。た。く。八。百。餘。人。を。れ。く。に。
 虎口を固めく。候。蒐。り。り。然。不。小。明。智。日。向。守。先。秀。の。子。餘。務。の
 軍。勢。を。治。右。衛。門。先。忠。小。率。後。を。せ。同。日。午。の。上。刻。二。又。条。の。城。へ。推。進。三。方
 一。り。壓。調。圍。兵。同。音。小。城。を。揚。り。縁。て。必。死。の。城。中。に。城。を。合。と。も。隔

所と懸連する炮矢と吐小兩よ霰と乱獲するに余も忠の武士は
 され敵子出た矢も凌虐さるて。魁兵數十誘うち弊さる。遠威に畏れて
 明智方進を任人に見えたるを治右衛門光忠怒声を發し。蓬き自方の
 奉止る。日本に怖くといふ。右大臣は。唯一時子撃指しに。東西に員り
 へ中將殿すして。二条の遠城日向守の繩斬酌して。榮梅へ城廓
 あり。乾隈坤隅の要産ハ。哨すく。あまを視認さる。兵軍哨は。継く。巻しと。
 一返りり。抽て馬と。跳ら。色。進むと。落ふ。惟が。撃手と。なく。一放の。手銃。筒音
 烈しく。飛来りて。隊將治右衛門光忠が。大神の。瑞系より。腰。壺を。撃。搦れ。と。
 あくも。堪え。馬より。撞と。轉び。墜。それと。視るより。城門を。狙と。用いて。二
 百餘人。一吐。小。威と。拳。鬼。福。富。平。左。衛。門。菅。原。九。右。衛。門。元。利。新。助。平。野。勘
 右衛門。送。門。甚。ぶ。弁。同。甚。六。郎。倅。鎗。の。銃。矢。を。突。連。係。墮。雷。の。像。く。奮

獲。し。四。角。八。面。に。迫。起。る。明。智。の。兵。士。の。大。將。を。撃。ち。墮。落。す。猛。士。の。死
 懐。を。も。ろ。く。突。起。ら。ず。瞬。く。際。に。敵。を。斬。二。百。餘。人。を。送。び。た。り。徳。痛。神
 け。さ。を。も。れ。と。や。崩。起。て。放。走。を。先。秀。これ。ふ。ら。驚。き。急。に。命。じて。四。五
 天。但。馬。守。と。治。右。衛。門。の。文。代。り。む。あ。ま。よ。り。何。れ。但。馬。守。政。孝。自。勢。三。百。餘
 餘。人。の。明。智。方。の。兵。士。大。將。今。峯。頼。母。光。之。尾。石。与。之。忠。武。右。衛。門。藤。八。郎。武
 政。中。澤。遠。酒。助。知。元。倅。の。八。百。餘。人。を。一。隊。と。し。各。獲。勇。猛。威。を。振。ひ。
 噴。く。声。り。て。攻。進。す。中。ふ。も。大。將。但。馬。守。迫。起。ら。ず。自。方。と。い。ふ。より。轉
 蓋。り。突。起。揚。屋。明。恥。張。知。進。意。の。志。れ。る。城。中。の。敵。を。自。方。に。は。れ。ば。
 強。は。九。半。が。一。毛。なり。か。に。怖。ろ。く。と。進。ま。さ。る。先。哨。取。作。を。鑑。習。よ。と。長
 戲。の。操。れ。鳴。蒲。る。や。ど。う。ち。ろ。く。突。投。な。れ。る。總。軍。を。是。子。後。ま。す。と。と。喚
 叫。ん。と。攻。起。す。遠。極。勢。に。懸。され。崩。鬼。り。し。明。智。勢。も。是。を。怒。り。て。

返し而軍死活頼以進川返しつ決我しけきバ河所方ふ福富五九
 清の常若九七其の毛利頼助あどつ猛士よく我よく段死を明智方に
 毛右田若八郎校生之志ある今奉頼母中澤達酒助加宗利清二弟母
 百有餘人我死を二恒中将信忠卿の今生末期の心徹ふ英くく
 軍せんとて頼威の鎧も蜀紅紋を細ふうけける復巻ひ二十八宿に標
 したる白星繁を龍頭の兜と梅長小被止し青貝磨の薙刀を銃尖
 あがり推拏新正魁ふ馬を躍せ激声高く強出る人ハ城兵僅うハ挽
 らふ登死城田源三郎孫長因又十郎長利因九弟次郎同勅七弟七
 の不ろ敵着新ふ弟我智十弟後股肱此勇士二百餘人喟おとらとと
 奮發をく。縋を操くは横をも揮む巴字の逆る勇兵あきバ巴字に純
 合猛士あり我血汗を漂し斬骸馬をも埋るるり。接起と烈我しをを。

明智の勇士倭信と祝く中將敵の出ゆを。喟段果て巻にせんと馬我
 連て強出を其門くまハ明智十弟左衛門三郎田源左衛門孫長因孫長
 百餘人銃銃銘く棚て蒐る一個も餘さド漏さずと。金石此疾亦合ふ如
 く燧發を散して我ふやどふ兩軍迷に必死れ勇士斬ども棚とも怯むるを百
 騎が十騎にかりまをも。退まらざるを。横返し逐返し敵つ撃まらるハ
 一ハ烈しうりたる悪見を。雙方猛烈かりとつども進まハ適う適あ
 れバ勇氣の横をわりのべ。城をハ今日を渡りあして。糧命童義に密かれ
 バ。諸出ま脚ハ大磐石より種堅く殺く然と棚起るるを。得小獲を
 明智勢も侵澄まかりて看えなれ。捲らますと三宅藤兵衛松田太
 弟左衛門加治石久。二枝勅兵滿隊が六百餘人暴隊をそつと横隊を
 了。無二無三子突崩せを。城を心の孫息も搦せ。果隊の兵は款しどく



齋藤内藏助心を決して
 古主新五郎長龍を撃つ

豊臣評五藏卷之八

段る。葦原成知らば。織田信長の明智光親に段を又十郎長利に段を
利三に撃れ。其外勇士四十八人殺を合せく一百廿有餘人。その死より
段死して明智方にも残負死人三百餘人。遠响中將佐忠卿に三つうり
かふと廿餘人。所身も深傷二口負ひ。自勢を強めて城中に退入り。是中
將敵の籠に攻新之部長龍に原道三が孫をして。右京を支配興に付たり
深別平治ありと死。遠長龍を織田家以爲め。其友の家を之しめたるが。新
部も亦死して。よく佐長公所父子に仕へる由忠去ゆる年中將敵不有属しけ
れば長龍まましく琢磨して今日の期に及びたる。然バ方僅六七君恩を報
せむと時節かれと必死を期て擲て出た。た亦右にも叛逆人の光秀を
段投らざるやと仇武者ふの自由属に。明智が旗本一近侍人と。鯉鯨の
鯉魚と驅が像く。敵起て明智が先陣と擲破て。二陣の隊伍一突投らんと

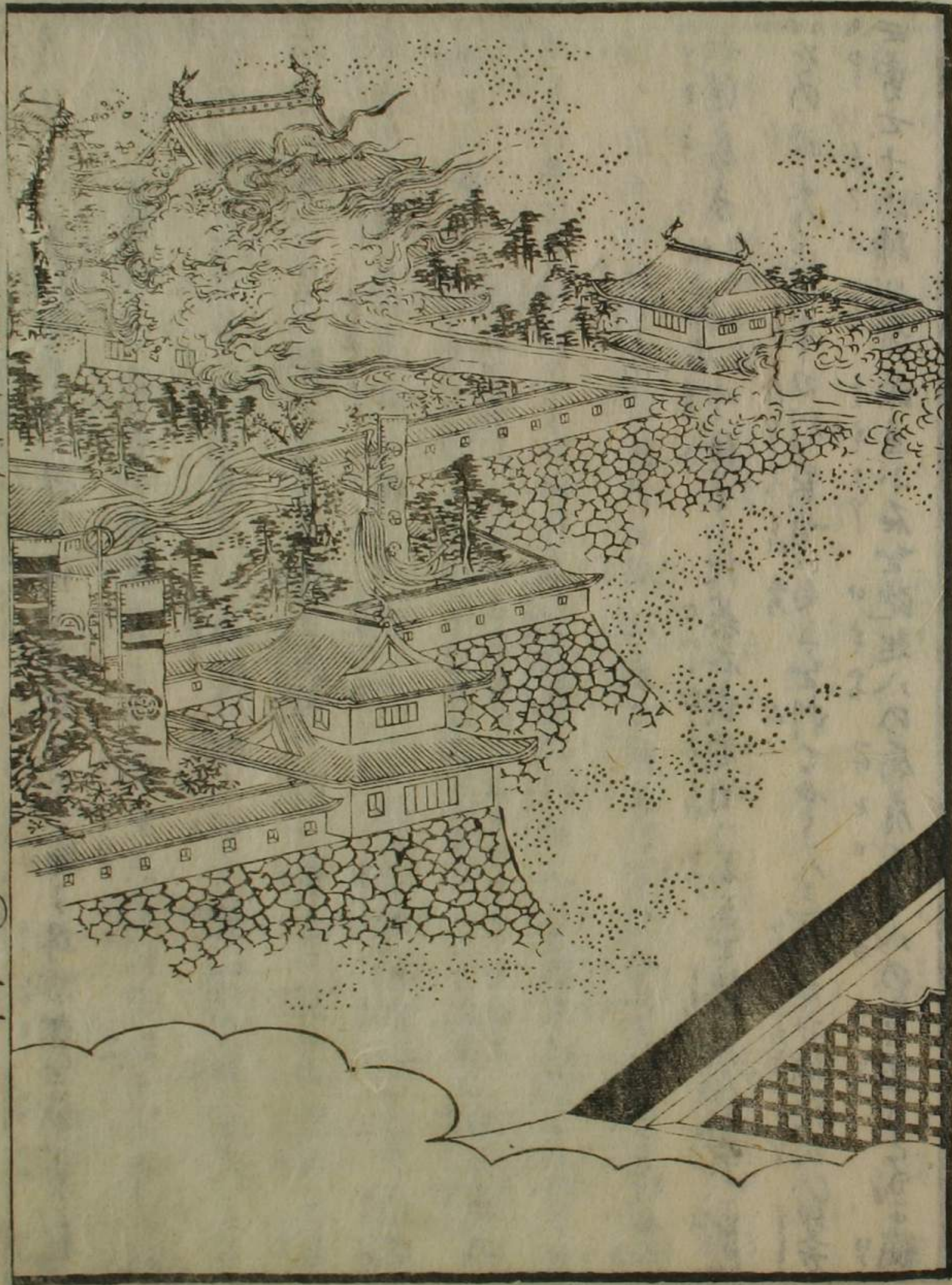
まるとこ返へ此田帯刀の才同苗七藏氏則。片陣の鎧推把て。敵を長龍
に寄て蒐る。新之部復頼等七鎧と交へ三匹をうり此合し。死傷は長
龍が烈勇にやうふりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうり
するともろを。呀と声うけ咽輪より。裸付たあころりまで鎧脱白く突搦
ころり。勝ふまじく新之部日向守とを懸す。敵士皆逆記進しけり。
遠响曰く天改着い中將敵の退り。深を條に属投してせんやくも城
中へ稠入り。長龍遙にこれを晒し。都るに至君の所先達も意許かし
退返さんと馬城滿して城をく。地たりたる。敵後内務分利三城兵
夥段投く。猶城内へ属投らんと。進む馬術一長龍が。最英輝は退返し
段。これ良款と馬強進せ。近づくに呼ぶやうやうやうやうやうやうやう
古き奇藤新之部長龍殿。大あやうやうやうやうやうやうやうやうやうやう

見冬とて聲のけらま長龍城中もむり。示諭弁にゆき
 れ。馬事済して身替を。逆城の智に組まる内務介一族は
 とら修電の縁く突發と成内務介ハ有保の主家ハ恩義に脱
 ちてちの意返の後なれば勝負に渡境を以てころへ魁軍は
 長柄刺の使率ハ横際より新の部ガ草摺を以て視徹して
 腰より腰へ三尺をうり鑄徹を長龍勃然と憤怒をたふす
 制率より疾く腰へ鑄をうり鑄徹を長龍勃然と憤怒をたふす
 公利より知事なれば子孫をうり餘の捷を新の部ガ馬の首足
 擲を突止ころりおきく馬ハ膝を以て長龍勃然とひしる痛
 いたぬらげ踏首へ焼く標子ハ魁の鞠鉢を贏りて捲りて
 馬並進せ首の絞を頰放す。使率速くも首を拾く。近出き人
 とさる公利

馬より跳下り使率が首筋捉て勢を失し。敵と睨み不礼過
 捉らるその敵と奪ふくいづく一齋行を各む成朝弄。ち
 款ハ小夫が二鑄削て馬足を倒す。是下も容易く首段ぬ
 是ハ切量の哨ありとつと利三郎ハ軍法を知る奴。さ
 とあさんとおそつ。敵成ん城く通合。我々くこ切参
 通名く。我々最中を汝が鄙怯。虚を窺ふ。横槍を。騰
 敵と拾う功参。我々さんとい合ありとも衣襟を喰して
 檀柁児面強くさう。六拳相らんと呵着ら。使率も。遠
 敵を換て利三枝く小神の下。馬小うち弱退。さ
 此方へ向ひ。進軍ハ村と和泉守。海尾。清原朝山。對馬
 道山。入村。敵三十部。系別。波。伯都。持。願。貞。次。同。小。支。貞。之。餘。人

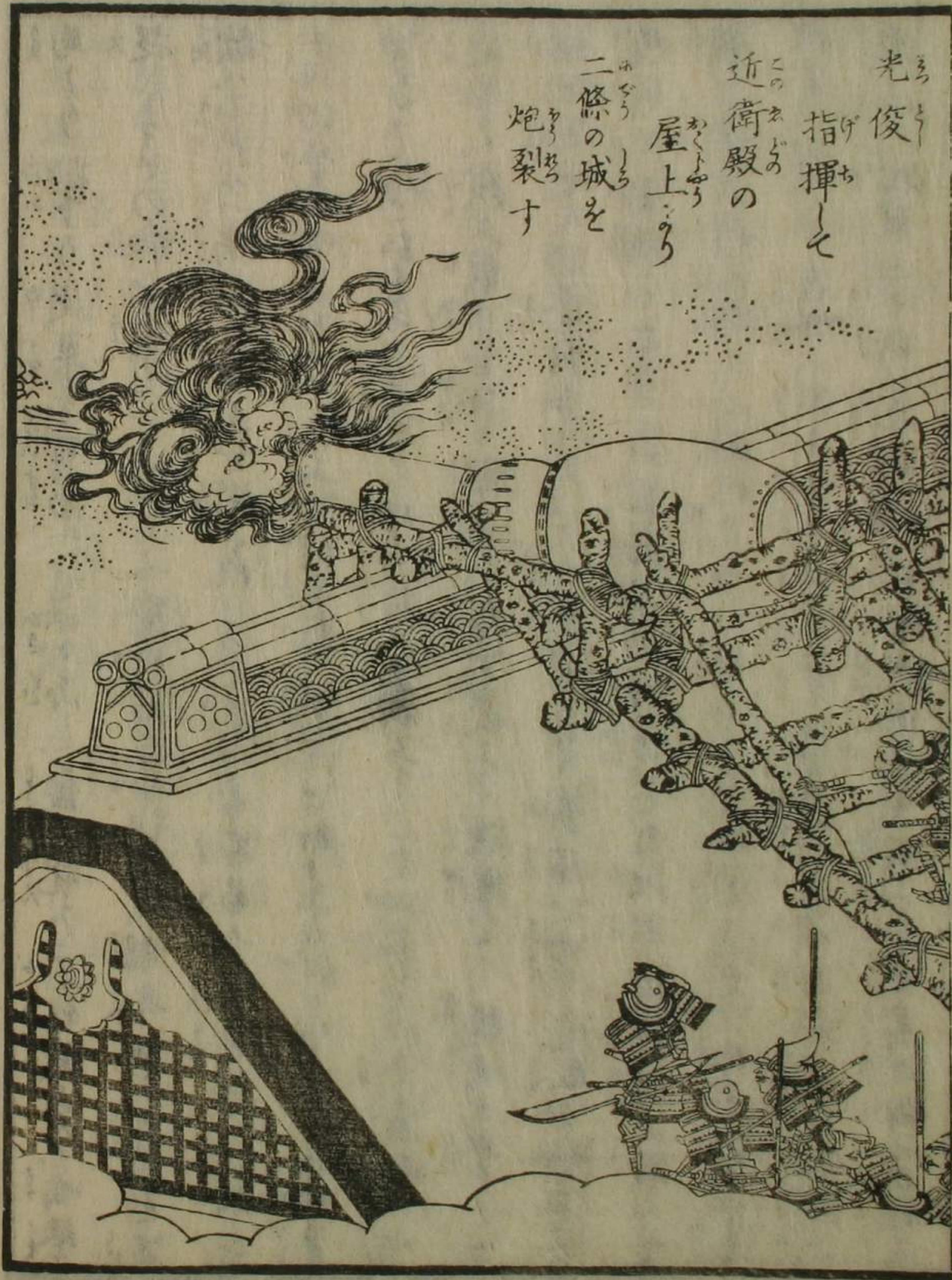
豊臣記五續卷之八

十一



豊臣自記五

三



光俊
指揮して
近衛殿の
屋上より
二條の城を
砲裂す

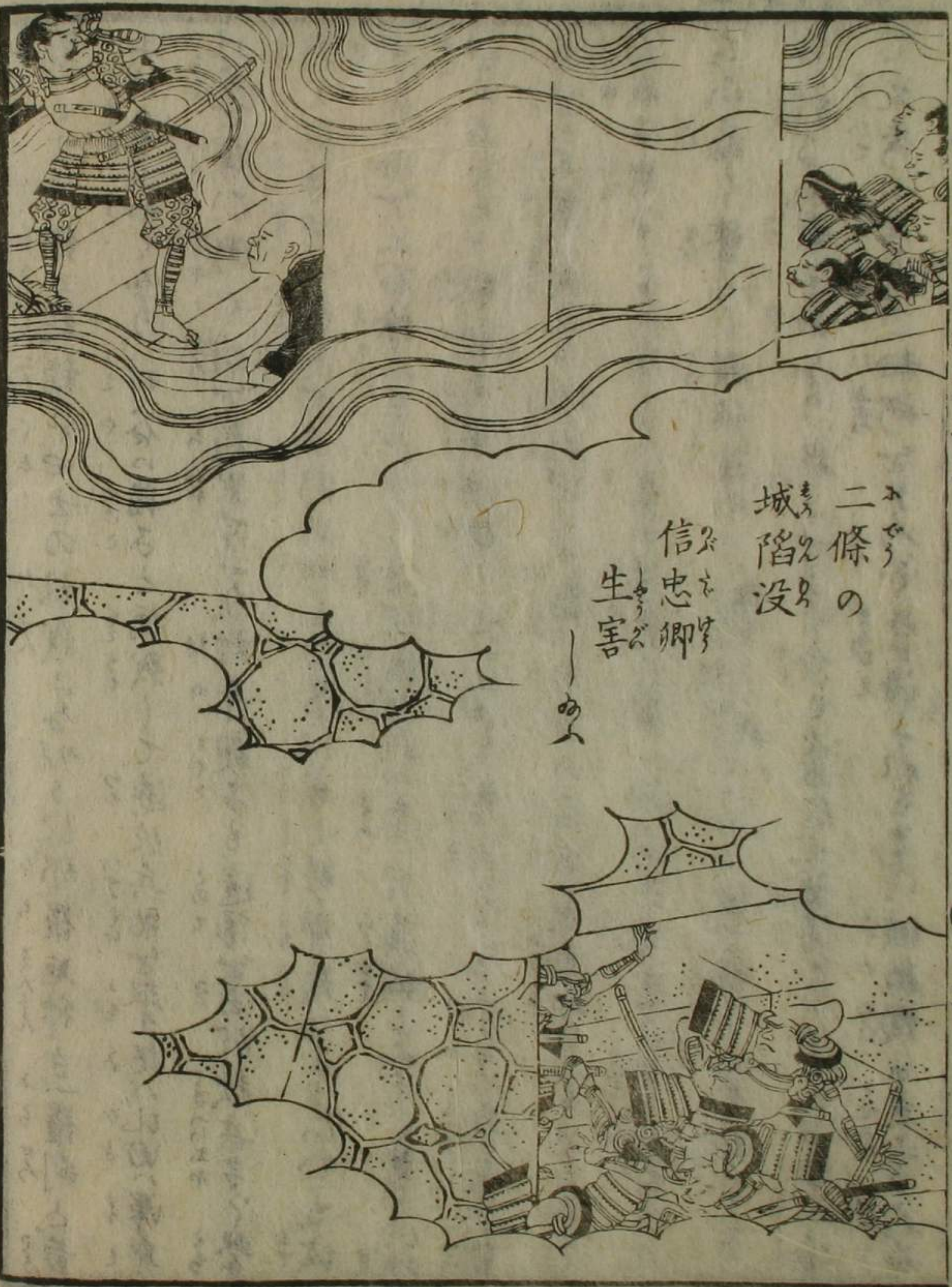
豊臣自記五

三

後炮よりも猶もさるるに接し棟で攻起るるが。遂に外防謀を破り。統
 一小勇を我より當方を拒抗勇士共。猪子兵助信好。因平八郎宗右
 村井長門守父子三人。あまのの兵士百餘人水も湯にかり。磚も火もさ
 らり。我ひかるが。魁をうける猪子兵助が。二期を着る當日の。猪相も
 華威の大獲。同系頼の頭形。飛之。四寸の太刀。お振。左方を當て。頑投
 八因平八郎。左系宗近の。又宗近。八右松院。多晴公の。軍隊。うじ。が。軍
 甲冑に。ち。刀も。猪子。よく。似。たる。三。天。守。の。利。刃。双。小。く。瀑。布。に。當。り。當。り。が
 像。く。進。兵。の。右。方。を。斬。起。く。二。務。相。並。で。殺。奪。し。た。れ。ば。昭。智。の。勇。士。村。長。太
 兵衛。房。武。村。上。和。泉。野。隈。ま。り。記。基。石。武。者。哨。の。軍。と。擊。手。投。人。と。突。て。出。ま
 ば。その。眼。より。比。田。帯。刀。刺。家。首。へ。白。を。刺。て。中。う。んと。薙。刀。お。振。張。向。ひ。雙。方
 四。勇。士。十。六。蹄。沙。汰。踏。ま。小。石。を。抛。起。八。の。屬。肩。甲。廿。八。の。手。摺。も。とも。も。翻

画柄の火
 矢と物
 の長しと物
 之も持た
 之も持た
 之も持た
 之も持た

飄々と槍鈍刀鈍鑊。四士の烈我さるるに。那羅延神が二羅刹と。黄
 土戎卒ふ如くあり。神谷の猪子と。播我して。遂に兵助を撃。比田。澤身
 此力を揮ひ。漸く圍を刺果せり。村井親子も。遠隊を去。敵兵多く。撃
 搦て。乱軍中。我死せり。斯の如く。名を。た。勇士。野。隈。頭。を。と。い。ふ。も。城
 中。に。い。か。を。三。百。餘。人。さ。び。く。防。に。我。を。れ。ば。急。に。落。城。さ。す。く。も。見。え。び。攻
 便で。在。る。が。明。智。光。俊。指。揮。し。て。い。ふ。や。意。得。さ。る。も。今。日。に。我。敵。の。小。勢
 自。方。の。大。軍。一。時。も。攻。乾。づ。ま。動。は。自。方。の。兵。軍。色。失。起。の。あ。ま。の。さ。く。く
 公。威。を。恐。る。も。の。あ。ま。の。人。さ。ま。小。究。竟。の。事。こ。の。は。嚙。着。よ。西。山。百。步。の。う
 ち。小。高。く。聳。つ。殿。結。核。あり。を。清。殿。の。下。二。条。の。楯。を。眼。下。小。着。却。し。事
 張。計。る。も。最。も。妙。なり。斯。く。せ。よ。と。命。じ。る。に。は。諾。得。たり。と。三。百。餘。人。縁
 て。光。秀。が。高。統。の。秘。術。を。と。り。と。學。得。た。れ。を。ま。げ。被。敵。頭。を。走。り。大。石



二條の
城陥没
信忠御
生害

炮隊懸垂て二条の天守城眼下に現ひ。砲と放るる鐵城もあどる保つるこ
 を得ん覺。礮隊懸垂て。微塵もたらく飛散るところを砲を二百餘人衆を連
 袂。大矢を銃隊射。蒐撃蒐。息成もほげ挿さるるに。天守一團も燃たり。
 烟脚散して。都率隊も焦るる。爆声奮々。須弥鐵圍をも崩さん。砲
 のまきも下に見ふ。隊兵おわす。強強を防さう。てて見えたりける。
 進まざるも勇氣成増。まきや落城遠時あり。進めくと。卒とく。ま
 込むと。遮る兵もく。二の丸側を推拒り。後中將殿の忠臣も。誠智
 小十郎利高。大和國高取の城を。誠智。とつ。大別壯士あり。信忠卿の御前
 に。祇候。慎で言。故さう。今も。既不自方の兵と。半と。過。毆死。
 隊兵。い。疲。苦。堪。以。控。憑。微。見。え。は。方。僅。の。沖。運。の。期。あ。る。ん。ふ。小
 尾。最。期。の。一。戦。して。款。を。防。さ。ま。あ。る。ま。を。危。な。れ。其。際。不。快。く。沖。運。を。め。せ。

ぬつと。物。む。も。も。中。將。殿。愉。快。氣。不。笑。を。わ。ひ。响。を。終。を。思。ひ。侍。と。と
 て。血。涙。に。して。持。ぬ。ふ。藉。刀。此。益。を。拭。を。せ。わ。ひ。汝。今。日。よ。く。戦。ふ。備。生。命。を
 全。ふ。せ。を。承。せ。世。の。遠。き。と。ま。し。を。保。つ。命。ま。か。り。び。と。懇。切。に。命。せ。ら。ゆ。
 彼。藉。刀。隊。獨。り。々。ま。バ。利。高。の。階。既。洞。を。さ。え。藉。刀。を。受。く。が。い。さ。た。く
 沖。運。の。渡。瀆。の。お。ん。い。さ。く。在。ま。し。唯。今。二。逢。の。門。波。が。小。尾。滿。量。以。つ
 う。ま。り。真。途。の。供。奉。に。魁。か。さん。と。重。傷。して。ま。り。出。本。丸。の。関。風。が。む。り
 だ。誠。智。小。十。郎。利。高。が。若。思。に。報。ふ。未。期。の。軍。運。誠。明。智。が。陣。中。に。真。代。武
 士。の。あ。る。ま。り。向。ふ。く。然。し。と。大。意。声。ふ。呼。り。り。は。も。驚。地。に。突。出。網。羅。網。さ
 敵。中。で。面。も。振。ら。ひ。強。て。廻。る。を。それ。擧。止。す。と。數。十。諸。が。槍。の。衝。先。を。踏。踏。返
 兼。より。控。く。藉。散。ま。四。面。を。一。連。に。捕。圍。め。よ。を。ほ。け。す。と。龍。骨。車。湯。巻。款
 誠。智。と。斬。流。した。る。悍。勇。ハ。當。里。く。く。を。見。る。と。あ。へ。野。口。又。是。の。辰

利之通号徳を鑽て突之を速く。低身に在願之樓着し。越智も我
 等たるもや。あそれ野口に渡さる。逝年女一歳なりとぞ。然るも中将
 信忠卿今の斯よとあやし。花田徳若院主以法印成勝下唱され汝ハ
 命成全や。いふをさし。桐田を脱出安去し到り。三法師丸を殺し
 女守を運搬かさしめ。合資候か。びは秀吉と力を勦せ。逆城を
 光秀を後成速成かし。又之我との怨魂を吊らせ。さし。官ふと云
 以教行此洞。又嘆び。謹で令成候。城を幸じて。秋の桐を抜取。安
 去成。して速行。信忠卿方僅は。心算。と篠田正次に勅前の
 あり。成令せ。是。獲取。并。雙。賊。窟。は。勝。十。文字。に。檢。到。て。篠。田。と。呼。ぶ
 一。正。次。と。り。得。終。子。河。首。を。撃。た。て。ま。川。至。河。邊。言。の。如。く。首。級。を。中
 へ。抛。入。り。二。條。の。高。嶺。に。花。丸。を。お。さ。る。と。大。將。河。生。寄。す。く。の。を。城。中。に。疎

兵或ハ敵と相刺殺ハ戦事並或ハ自殺。兵士離卒お。か。び。く。六百之十
 有餘。ハ。我。死。して。果。たり。々。々。明。智。方。は。此。準。と。て。残。負。死。人。一。千
 八百有餘人。當日。未。下。刻。終。は。城。中。たり。胸。中。信。忠。卿。逝。年
 女。六。歳。と。り。か。り。々。々。遠。君。い。ま。と。河。生。早。く。お。さ。り。た。れ。ど。食。料
 此。甚。量。備。置。の。ひ。私。も。治。も。其。功。屢。お。さ。せ。わ。さ。ふ。天。命。法。師
 中。さ。は。良。將。軍。の。存。た。る。を。た。り。逆。成。の。と。り。早。世。の。人。等。呼。呼。い。ひ。か
 大臣。と。い。ひ。中。將。最。も。一。時。に。滅。亡。を。さ。し。め。は。る。光。秀。ハ。是。何。者。と。や
 熟。く。後。事。を。鑑。り。ふ。天。光。秀。の。存。た。る。と。り。此。天。下。と。て。豊。秀。君。に。賜。ふ
 あ。ら。ん

光秀入妙心寺料理方爲 属 安土退城

花ある枝を折とれハ人おわひは是成意とつと。葉中へは成折

とれた。薪の外子用ながら人然れども明智日向守光秀ハ六月二日未時
より赤の下刻頃まで本願寺および二條の城を攻陥し。後田家河又
子成撃くそま川りて城の聲も銃の音も一たれば禁中いづも更なり
洛中洛外にゆるましく強勁なる鐘あなりこみし。貴族老幼恐怖を懐
て嗟叫び。親皇子を棄て夾の婦を頼み。汗懼ましや生かぐ。修羅の苦街
に流るるあまかと東西南北小遠まきとれかかふるも本願寺此未寺とい
宗旨交連此寺より。天葵衆まき。注伸まき。筒槍の齒を扱かぬ
。平安神護の禁中にい在といども。いかる凶徒あうらんか。周裏守
護れ。食官小面十二の門に城固りゆひ。亦敵よふを固白。大長。橋家清家
月卿雲客。皇上前。城衛護れ。とそま川り。新。當日。維。深。須。明。智。光。秀
が諸軍勢。凱歌あけて。三軍偕に。獲。集。一。つ。も。一。急。や。之。賣。の。妙。心。寺。に。過

心寺、千西の
相堂、金、以
に、毎、月、の、初
日、入、派、を、こ
と、は、金、百、五
十、也、云、云

陣をま。豫て光秀。天下城。指する。之心。ハ。愛宕の。連。秋。小。顯。愈。了。れば。此。朝。子
及ぶ。とい。さ。い。い。ども。唯。人心。で。計。らん。ら。ふ。背。然。る。氣。色。成。し。多。年。に。怨
も。戚。却。し。う。ろ。と。燭。を。燈。して。唯。獨。金。仙。殿。の。中央。に。禪。座。し。稍。久。く
礼。拜。して。觀。葉。檢。把。り。禪。世。と。お。か。が。一。聯。の。句。を。書。記。遠。响。傳。信。子
慈。系。に。給。仕。し。在。り。し。雜。僧。を。と。ろ。し。光。秀。の。面。色。を。覺。り。今。書。記。し。ハ
禪。世。の。頌。ま。や。り。ん。と。書。院。の。旁。へ。乞。出。く。比。田。帶。刀。三。宅。式。部。子。若。く。は
か。ば。人。慙。孱。ま。り。も。危。馬。の。脚。を。付。く。急。ぎ。光。秀。に。前。を。來。り。前。を。齊。し
く。信。く。い。や。り。新。ハ。所。法。慮。を。り。今。更。に。粟。良。も。併。下。の。後。短。か。ぐ。傳。聞
なる。湯。玉。を。夏。の。長。う。と。集。ま。れ。暴。を。惡。ま。て。あ。ま。成。放。ら。武。王。ハ。殿。の。疾
く。道。ども。討。ま。の。邪。を。征。し。羊。奴。趙。青。其。君。を。執。し。了。れ。とも。桓。氏。治。國。の
道。ある。と。り。て。孔子。も。あ。れ。を。載。送。を。り。六。宣。を。さ。り。た。今。ま。の。あ。ら。う。長。尾



光秀
妙心寺
投
諸士の
心中を
試む



為京上秋房義を誅戮して。京勝越境に饒怒り。臣の身じて云道
 此君と裁する事。和漢の例を考へて。是國民賊安んぶる。英雄豪傑の
 志あり。然るも目今。至君の模様を視て。その心も。不所覚期の量こそえ
 ぐ。唯只所身の万全を。單におぼしめさせらる。大張都子旗を揚て。扶
 桑の言もあろう。夷狄の情も至る。征伐を遂む。天下の民を安
 くにしめぬ。非料理こそ。縁がら。と。理を。て。を。休め。る。日。向。る
 も。實子。然り。と。心。整。せ。相。親。と。心。慈。二。夜。政。勢。を。不。執。行。か。り。と。
 言。々。の。由。急。た。馬。助。と。初。て。各。安。達。の。恩。を。心。ぬ。先。秀。寔。胸。自。殺。せ。を。
 切。く。之。の。憐。た。る。も。熱。凍。し。ま。う。せ。死。を。止。り。る。子。過。り。て。去。民。の。子。不。悛
 念。成。零。せ。し。事。ハ。固。あ。る。も。果。た。る。も。其。身。の。り。と。外。人。の。刺。り。評。は。も
 多。う。り。け。し。也。然。バ。今。日。の。事。不。か。い。く。禁。庭。を。く。戈。戟。を。鳴。さ。む。る。条。も

忠愍をたふし。も。何。れ。を。使。者。内。裡。に。あり。て。使。く。天。氣。と。何。し。と
 妙。公。寺。の。典。司。に。命。じ。奏。報。洋。子。粟。一。合。め。奉。内。と。あ。ん。せ。さ。る。也。其。初。よ
 り。先。秀。豫。く。奇。謀。と。め。り。し。近。湯。殿。ま。と。づ。ま。る。也。其。時。と。執。投。け
 れ。バ。種。家。公。も。先。秀。に。容。易。昇。殿。を。さ。し。め。て。龍。顔。と。稱。さ。せ。た。く。也。其。累
 を。計。ら。れ。ぬ。と。二。条。に。昭。家。公。魯。司。の。房。通。公。を。ど。ふ。是。以。許。諾。し。ゆ。ん。上
 へ。所。恨。れ。お。ろ。し。ま。せ。を。殿。下。に。お。つ。く。天。盃。と。楊。る。也。此。所。評。定。さ。す。ま。り
 ぬ。清。と。と。ら。り。妙。公。寺。に。役。僧。二。人。奉。内。し。て。傳。奏。難。波。中。納。言。宗。本。卿。に
 清。さ。ま。ら。ぬ。也。謹。く。先。秀。の。奏。詞。と。言。上。し。た。く。ま。り。今。日。惟。任。日。向。吉
 光。秀。奉。能。寺。な。り。び。に。二。条。の。謀。を。備。田。家。父。子。に。擊。投。り。軍。勢。残。ら
 ば。妙。公。寺。へ。退。去。は。か。ま。り。の。難。也。先。秀。も。い。く。奉。内。と。遂。天。慮。と。何。し。と
 て。ま。り。も。さ。り。れ。ども。今。日。の。合。戦。に。血。を。泥。し。衣。服。に。穢。し。思。は。れ。ば。即

地妙寺の没傷とて、奏聞と違ふてまつらんを。开も先秀が趣意とい
つむ。信長が威と逸逸に、神明佛陀と怪し滂り。佛地法園と焼破の
るとい奏せむとも富めさるゝとる候なり。増てや諸民も悉く道の通と
ることなれりて。先秀備に信長の旗下に属臣といふも。三代相傳のま
をゆへ。別や姓と異しして。先秀の清和の流と續く。後先衛
の未なれは、朝廷の臣家なり。亦信長が平氏なる資盛の子孫なれ
ごも斯波義廉の臣家なり。然るも松成と諸侯の上は、張藩して思
日夜は、擡長したるべし。止るとを得ば、天下れたる。先秀も是を謀り、平
ぬ庶希へ先秀が赤心と監察多し。四方逆遠の國は、征伐許しむも
らべ不日に天下泰平と。奏聞とて、舒たりたる。宋を御熟耳听し、め
され。這条とりて執奏あり。後日勅定は、法正と。命傳されりしを、使

備へ内子拜謝し、川も寺も降りて先秀に。斯と若きバ明智を後勅定に
にと序津して、其意ハ休息なりたり。備先秀の二日の夜更の魁と過る當
天友田傳八と近く、昭傍奉祭して、簡要の詞を失念たり。後ては、疾
を乞の功あるに依り、扶助の初に、試畢たり。遠遭大事に、使者以て、汝
に領命なれを、梅へて過失とあら。今中國に羽榮秀吉、毛利の家
と附陣なれ。唯毛利家に内應して、相築城、使整んとおり。汝彼地二
堂、夜も毒着、唯方僅ち、小書記たる。内應に折簡とを、つて、使敵に
吾川、小早川、兩將のて、相通与。唯心底をも、張説と。努力、相
多、密に祝出さる。奉り、れと心、責て、余に、けき。傳八仔細、心、兼、所
膜、併、ど、ふと、乞、出、に、原、來、流、通、に、知、る、途、上、神、仙、天、狗、の、形、も、七、何、り、け
人、来、り、後、中、為、松、ま、を、行、程、七、十、り、の、長、途、を、一、晝、夜、中、し、て、先、著、し

とぞ妙心寺此不禪の至此して同日の午に至る以江州本太の城中城
 下後と云を以て風團一々大明智秀君を殺して大將清又子清を
 害すはせしよし。傳口も言難し。市中珠子若劇。因妙を袖ひに奇光し
 今もども。天下此大事ありを互に思慎して何とも伺ひ出さざればも
 因章するふと限りなし。尤右ふ未の十刺とあり。故亮士次取就あり。城又
 る代えらるるふ。市中まんく驚愕をし。新の底事のひをやと故亮士とに
 問訊れど地通るころの疾をれば。定決し聆取。まもたくと下へと喚動し
 て。雲泥おも着惑をありあり。此子あいつと去る代備生右去清又夫賢
 秀光堂外池甚むた清つ城はさうて。城下の街へ洵させたる西河所の
 河城明智日向も送むよ。今朝系都にかいつ。河生室うとたり
 然とも常河城此事ふおいく。珠子賢固子に。城下の民衆嘗て發動

べからば。馬務廻して制しなれば。あまは成驗より街々の光幼男女衆聲揚
 て。呼あま。や又母れ。慕うるもを成源さ君を。光秀が鼓し。そ中何りしと
 や。然れんを現世まもやおくとぬ。愛子なれか。果あやかと泣悲む巷
 境に満満て。長き壁にそのかうり。親をに真賣業賣さ。新ひまぐ
 慕ひまわらるるに。況や右大將に嚴室のまうさもあら。近之庵徒徒まか
 ら。後堂新婢婢女子あうさ。睡秋の滅燈海上破船のかさひがかりて悲
 哭泣泣楚てを羅む。むむ柱ふをりあり。中にも嚴室の遠城の安危おわつ
 かわりか。か。浦生賢秀が居城をる日野。河邊を河邊さう。屢命命
 是々れども。賢秀固く制し。まわらせんせう其城にかよびまう三人。唯遠
 城を捕らうて。防戦まよくいとの代と。さあぐ重獲めさるるせ。努て供養さる
 其中に遠尾あうりの泰倉武士の遠強動に聆怖して。各妻兒族類を伴ひ。

小零乞此。當夜の責は過る頃山清源を大府門。遠路初小礼
 公。或は先考に恭接せり。自己が部を焼掛し居城山清へ逃去け
 里。あれよよの。蒲生賢秀。若び思慮め今じつも。諸士此心おとひくに
 離散あして。防我勿くありひもよ。遠上へ唯退城。と。嚴室正胤
 女房達も。その御準備をさせまぬ。年久日野へ使士派乞ら
 せ。這赴候傳口を。翌日子息忠二郎。御遊りて。橋興又十駕馬百匹驛
 騎。うれき二百餘匹。牽せ。安去。一奉と。それを賢秀大子。歎恨。し。翌日
 の未明より。當城逃去せ。る。を。成。と。上。下。人。に。解。示。し。る。が。遠。胸。嚴。室
 女房達。今。遠。城。を。退。入。り。金。銀。珠。玉。を。拾。取。取。て。城。子。大。放。燒。奔。人
 や。と。あり。る。と。右。名。傍。を。夫。頭。と。う。ち。牌。大。長。お。れ。ま。を。所。公。城。燭。せ。れ
 たる。天。守。と。し。め。那。様。遠。閑。子。お。る。ま。く。大。下。を。雙。の。結。掛。を。り。城。營。

一個の了簡城をて一炬にこれ焼奔人こと物新を記こと。先考の
 人子似たる禽獸に似て。燒奔人あともあらん。假令燬て燒去。自己が有
 とを。と。し。つ。も。天。命。を。ん。を。淹。り。ん。や。ま。う。に。討。宝。金。銀。八。使。て。拾。收。せ
 まう。ま。は。し。小。臣。怒。不。意。強。以。て。嚴。室。を。退。城。を。さ。し。ま。の。せ。令。報。珠。玉。を
 採取し。嘲ら。を。最。巧。賊。を。ん。を。り。唯。遠。来。子。う。ち。捨。た。と。本。村。治
 希。在。湯。つ。に。城。を。搦。し。日。野。を。當。て。七。急。せ。る。備。亦。明。智。先。秀。ハ。三。日。此。卿
 漏の响く。先。ご。ら。左。馬。助。先。後。子。指。揮。を。傳。へ。大。將。の。職。に。掌。ら。せ。に。加。委。去
 を。奪。も。せん。と。ん。あれ。後。子。勇。將。に。は。本。山。城。古。の。重。同。友。之。重。重。仲。妻。本
 長。子。頼。範。賢。四。王。天。又。是。清。政。実。今。奉。勤。助。赤。正。頼。母。の。三。宅。周。防。官。業。朝
 武。親。の。嫁。又。千。餘。騎。以。川。當。て。表。向。を。是。より。先。に。橋。下。に。城。を。山。長。源
 守。同。封。馬。守。候。へ。使。者。を。遣。さ。し。自。方。た。し。む。び。さ。旨。誠。言。送。る。し。つ。と。い



東江巴五編卷之八

四



細川藤孝
父子義氣
鍊石の像
光秀小
荷膽
せす

東江巴五編卷之八

三

0

つども 是山尾野馬ちが女をのりて 山尾兄弟右大臣此恩澤成りしゆめをよして
 の智光度(と)要(と)さ(と)均(と)あれは
 ちて 光秀が逆意(と)勸(と)せ(と)て 叛逆(と)を(と)入(と)に(と)無(と)忠(と)義(と)と(と)して 却(と)て 使者(と)に
 首(と)切(と)勢(と)回(と)の(と)長(と)檣(と)に(と)二十(と)間(と)を(と)う(と)り 燒(と)陥(と)し 道(と)治(と)氏(と)塞(と)に 防(と)戒(と)の(と)準備(と)
 と(と)を(と)ま(と)し(と)つ(と)ども 僅(と)に(と)其(と)勢(と)三(と)百(と)に(と)足(と)さ(と)り 明(と)智(と)が(と)勢(と)を(と)遮(と)つ(と)んと(と)の(と)難(と)
 と(と)く 逆(と)子(と)甲(と)斐(と)此(と)山(と)中(と)に(と)潛(と)まり(と)ぬ 是(と)に(と)依(と)り 此(と)隊(と)の(と)大(と)將(と)左(と)馬(と)助(と)光(と)俊(と)孫(と)不(と)
 ま(と)ぐ 進(と)ま(と)て 陣(と)を(と)布(と)に 魁(と)軍(と)此(と)勢(と)の(と)瀬(と)田(と)の(と)橋(と)に 燒(と)陥(と)する(と)を(と)其(と)蹟(と)へ(と)船(と)を(と)運(と)
 移(と)す 浮(と)橋(と)を(と)作(と)し 容易(と)く(と)入(と)り(と)ち 滿(と)里(と) 若(と)も(と)あ(と)く 安(と)土(と)を(と)推(と)進(と)た(と)る(と)
 馬(と)助(と)も(と)誤(と)り(と)傍(と)り(と) 炮(と)を(と)次(と)取(と)り(と)列(と)伍(と)を(と)安(と)土(と)の(と)城(と)を(と)往(と)き(と)な(と)れ(と)ども
 當(と)て 遮(と)る(と)兵(と)士(と)を(と)知(と)り 勝(と)城(と)番(と)本(と)村(と)治(と)房(と)左(と)衛(と)門(と)も 敵(と)討(と)を(と)し(と)て 登(と)ぶ
 ま(と)と 城(と)を(と)捨(と)り 零(と)り(と)る(と)に(と)て 千(と)戈(と)を(と)交(と)へ 城(と)を(と)全(と)り 金(と)銀(と)珠(と)玉(と)を(と)
 采(と)も 充(と)満(と)した(と)る 城(と)光(と)俊(と)又(と)て 蒲(と)生(と)を(と)奉(と)上(と)と(と)大(と)に(と)感(と)し 金(と)銀(と)珠(と)玉(と)數(と)計(と)安(と)土(と)の

民(と)家(と)に(と)分(と)與(と)て 國(と)民(と)を(と)づ(と)け 名(と)表(と)の(と)類(と)に(と)坂(と)本(と)此(と)城(と)に(と)これ(と)を(と)傳(と)る(と) 光(と)俊(と)
 其(と)身(と)の(と)安(と)土(と)子(と)位(と)して 江(と)別(と)の(と)地(と)を(と)治(と)め(と)んと 高(と)嶺(と)を(と)か(と)して(と)は(と)り 光(と)俊(と)和(と)
 山(と)の(と)城(と)へ(と)荒(と)木(と)山(と)城(と)を(と)父(と)子(と)傳(と)承(と)せ(と) 長(と)濱(と)の(と)城(と)に 妻(と)本(と)主(と)計(と)願(と)訂(と)閉(と)万(と)
 又(と)弟(と)淺(と)路(と)守(と)を(と)も(と)り(と)守(と)ら(と)し(と)め 其(と)外(と)其(と)作(と)の(と)六(と)角(と)を(と)も 三(と)時(と)を(と)う(と)ち(と)に(と)お(と)破(と)
 る(と) 江(と)別(と)を(と)く(と)く 平(と)治(と)し(と)た(と)れ(と)る 大(と)將(と)光(と)秀(と)一(と)夜(と)安(と)土(と)を(と)投(と)入(と)し 次(と)取(と)る(と)
 と(と)行(と)え(と)んと 日(と)夜(と)に(と)を(と)累(と)煩(と)し(と)たり
 細(と)川(と)孫(と)孝(と)全(と)孫(と)不(と)助(と)光(と)秀(と) 屬(と)忠(と)興(と)を(と)妻(と)
 敷(と)院(と)へ(と)最(と)貞(と)を(と)逆(と)峰(と)城(と)の(と)妹(と)子(と)聲(と)を(と)慕(と)ふ 忠(と)類(と)を(と)斯(と)邪(と)正(と)の(と)性(と)あり 人(と)間(と)い(と)
 う(と)で 曲(と)直(と)に(と)か(と)り(と)ん(と)や 是(と)に(と)丹(と)後(と)義(と)朝(と)の(と)妹(と)を(と)細(と)川(と)刑(と)部(と)右(と)輔(と)孫(と)孝(と)同(と)身(と)と(と)
 弟(と)忠(と)興(と)又(と)子(と)の(と)強(と)し(と)榮(と)久(と)の(と)祖(と)たる(と)徳(と)を(と)種(と)る(と)の(と)兆(と)顯(と)を(と)く 義(と)ハ(と)雲(と)長(と)江(と)魏(と)國(と)
 を(と)出(と)る(と)時(と)より 強(と)く 嫡(と)子(と)太(と)興(と)四(と)年(と)已(と)前(と)に 光(と)秀(と)が(と)女(と)成(と)室(と)を(と)迎(と)て 歸(と)され

皇目言五編卷之八

七四

まは日向守とみ謀りし。縁ある故り。先秀三日の辰明智を以て呼
 びし。備後父子が縁故を倍り。決定自方になりぬ。屋敷を快く以て玩諭し。
 自方に属よと太刀務備金銀など預多く齎せ。丹波の國義助の城一遣
 し。其口惜し。我他年信長公に對し。怨恨の傳少かむ。然りといふ
 ども。はたなる道とあり。敢て怒を費せんとす。まさしく忠誠を以ては
 信長却て誅せんといふ。つらむ。先んこれに止せ。先んこれを制し。昭ぬる。百
 系於子おいき。神父子ともに裁し。手ぬ。然る今より。縁故たるは好款を捨
 び。力致勅せむ。大悦。其報我らして。高領丹波の
 之さうなり。個馬着使。播磨城相濫。傾せらる。くはなり。と。舒る。誠聽て細
 川父子魂消る。大お驚。或も莫知。或も怒。使者小向。了。聲。誠
 烈。裂帛。さう。罵て曰。俺們親子。年久しく。信長公。此恩義を蒙

里。今甘あ。丹波の主として。妻子後類。安住する。あ。是。金。石。府。治
 の。蕙。乃。び。や。先。秀。も。亦。君。恩。に。澤。る。こと。吾。子。育。し。然。後。不。受。其。款
 謀。を。後。け。君。を。殺。す。る。叛。逆。人。に。い。わ。る。勅。力。を。所。縁。何。人。や。汝。も。明。智
 が。後。類。な。れ。お。息。地。擊。て。去。る。か。ま。ど。も。使。者。に。來。れる。類。子。免。し。宥。恕。を。加
 一。助。命。を。な。れ。を。速。く。帰。里。く。遠。首。を。自。人。子。體。驗。を。處。し。と。清水。盤。江。り
 や。く。し。く。載。て。發。身。せ。せ。し。播。磨。城。尤。是。揚。て。洞。庭。へ。撰。他。と。咆。哮。し。其。衆。子
 座。を。起。揚。り。て。藤。田。に。投。り。素。氣。を。く。紙。門。を。圖。斷。し。り。使。者。に。是。の。時。智
 兵。助。大。お。和。徹。頼。面。して。遠。く。去。去。し。逃。歸。り。ぬ。然。る。亦。忠。興。が。室。と。り。る。遍。年
 天。正。七。年。此。春。十六。歳。と。あ。り。嫁。く。今。既。お。四。年。を。經。し。り。遠。女。を。此。時。く
 勇。か。る。あ。の。頼。父。先。秀。亦。秀。あ。ら。ざ。れ。ど。も。温。存。さ。ぬ。岳。父。孫。孝。に。較。む。小
 や。詩。次。子。達。し。系。竹。に。熟。し。武。藝。の。殊。に。條。磨。し。て。官。途。最。務。た。り。し。れ

がたあふ忠貞も。困情恰も凍膠に。して。犯智魯の契冷うらざりし。光秀叛
 逆し。つら紙をて。義信られ小親とが。つ。右奥郡地小妻を呼び。不使や女今
 あり。叛逆人の娘なれば。武士の妻と。さらば嫁放ち。使と遠西を去。魚しと。
 光秀。しりの守勝。池田六。色流。一色。宗右。清門。窪田。治。左。清門。飯。に。扶。け。さ。を。丹
 波。此。國。之。戸。野。と。い。ふ。山。里。ま。を。送。り。帰。せ。り。三。戸。野。の。義。隆。の。細。川。文。子。が。義。烈。の。不
 と。銭。聞。人。と。い。ふ。小。威。禰。と。い。ふ。其。後。天。正。三。年。の。ま。秀。が。お。の。命。に。よ。り。て。高。の。如。く。逆。を。望。ま。せ。り。

繪本豊後勤功記五編卷之八終

